

POWER TO THE GIRLS!

心つなげる幸せ塾



熱気あふれる全体会会場

第四八回民放労連「全国女性のつどい」が6月4日（土）・5日（日）に福岡で開催され、全国から民放各局で働く二〇三名が集まりました。女性協と九州地連の実行委員は震災のあと、「女性のつどい」の開

催について悩みましたが、今だからこそ集まりたい。今だからこそできることがあると開催を決めました。つどいでははじめに、浦野真未実行委員長が挨拶し、「このような時期につどいを開催するべきか迷っ

たが、今だからこそ集まり語り合うべき」と述べました。続いて、女性協議会の岸田花子書記長が、「女性の得意なケチの力とつながる力を生かし、心をつなげることによって、日本中を元気で幸せにしまし

う」と挨拶しました。また、琉球朝日放送労組からは、契約社員から正社員化を勝ち取るまでの経緯が発表されました。

経済ジャーナリストの荻原博子さんによる記念講演では、震災で壊滅的な被害を受けた日本経済のこれから、今私たちができること、そしてこれからの私たちの生きる道について、ユーモアや共感できる意見を交えて、熱く語っていただきました。

その後、充実した分科会のもと、夜の交流会・全体会では、地震・津波・原発のいわゆる「三重苦」に悩まされている福島から、福島放送と福島中央テレビの女性組合員が、震災後の仕事と生活についての体験談を生々しく語りました。「東

北を応援しよう！」という思いから、福島県の特産品の蒲鉾、柚子餅などが参加者に贈られました。

交流会の最後には静岡朝日テレビ労組の飯田唯さんによって大会アピールが発表され、大きな拍手で承認されました。

翌日は、原発、震災など三つの分科会に分かれて学びました。

大会を通して九州の女性のパワーをもらって、全国に元気を持ち帰りました。実行委員のみなさま、大変お疲れ様でした。来年は北海道でお会いしましょう。

記念講演 分科会など 盛りだくさん!

第48回 民放労働連 全国女性のつどいin福岡

「第四八回全国女性のつどいin福岡」で行われた記念講演、幅広い内容で行われた分科会や交流会の様子を紹介します。

もっと知りたい お金の話

記念講演に引き続き講師を引受けていただいた荻原博子さんの分科会では、記念講演より更に踏み込んで詳しく話を聞きました。

改革が進められている年金問題では、60歳までに住宅ローンが終わっていること、財産のたな卸しをしておくことの重要性を教えていただきました。「マイホームを持つべきか否か」という質問では、土地の値段などの地域性やライフスタイル、個人の趣向に合わせた決めていくべきだと答えていただきました。投資型のものや

記念講演

どうなる? 日本のお金

荻原 博子

数々の番組に出演し、コメンテーターや解説者として活躍する経済ジャーナリストの荻原博子さん。普段、講演会が行われないそうですが、今回特別に「女性のつどい」のために福岡まで駆けつけられました。



講師の荻原博子さん

も働く女性として、どのような日常生活を送っているかなども聞き、最後には地方の経済の活性化や情報交換の場としてマスコミが担う意義も交えながら励まし言葉をいただきました。

震災報道について 考えてみよう

この分科会では、メディア総合研究所事務局長で労働本部常任中執の岩崎明子さんを講師に迎え、震災報道のあり方を検証してテレビ朝日の番組を視聴して、意見交換を行いました。



報道関係者の使命とは?

人、次の世代へと語り継いでいき、震災を風化させないことが大切だという意見がありました。報道に携わる者として改めて自分たちの役割、求められるものを考える時間になりました。

誰も知らない 沖縄の真実

誰にも知らない 沖縄の真実

講師に琉球朝日放送報道部の三上智恵さんを迎えて分科会では、まず辺野古の住民たちの反基地運動を六〇〇日にわたって取材したドキュメンタリーを視聴しました。「辺野古に基地は建たない」「子や孫に美ら海を残したい」と炎天下の浜に座り込むおじいちゃんやおばあさんの姿は、基地に翻弄される沖縄の歴史を象徴しています。また、防衛施設局の調査に抗議する海上七海底での座り込みには目を覚めるものがありました。

全体会・交流会



交流会終了後に記念撮影

交流会終了後、記念撮影を行いました。参加者からは「大震災の記憶が薄れないように、これからも継続的な支援をお願いしたい」との声もありました。その後改めて、福岡からの参加者の感謝を伝えるとともに、島の人々への支え

今日から実践できる 美のヒント

美のヒント

トップモデルとして活躍しながらも、二児の母である薬月さん。講演に迎えた分科会では、仕事で頑張る私たちが、毎日気軽にできる美のヒントを教えていただきました。冒頭、薬月さんの「女性はお金をと時間をかけて絶対キレイになれ。でも、子や孫が生まれてから時間が限られているからこそ工夫できる美もある」という強い言葉に思わす納得! 時間がなくてもできる美のヒントをいくつかご紹介。①食生活について「三白の害」として白ご飯、精製塩、白砂糖は避けて、正しい姿勢の保持や、印象を変える歩き方を教えていただきました。姿勢や歩き方で人の印象はこんなにも変わる! というのがとても印象的でした。

後半では実際に体を使って正しい姿勢の保持や、印象を変える歩き方を教えていただきました。姿勢や歩き方で人の印象はこんなにも変わる! というのがとても印象的でした。

[illegible]

「使用道は？」というテーマで、二六人の出席者がひとつずつ案を出していくので、濡れた靴の温気取り、ゴミ箱、野菜を包む、油の廃棄に使うなど最初こそ続々と出ていた案も、五〇は

[illegible]

イクメンに学ぶ
HAPPY LIFE♪

人も軽度のうつ状態。以前の仕事を辞め、半年の療養期間中に子どもと真剣に



男性の参

第48回民放労連全国女性のつどいin福岡実行委員一同

2011.5.15

デュケーショナルの他

◆在京民放キー局五社の2011年3月期連結決算が出そろい、放送事業に加え、番組と番組の間に流すスポット広告が好調に推移し、フジ・メデイア・ホールディングスなど三社が増収だった。

(5月12日)

「エニロジー」の意味合いも込めたという。NHKは昨年度から、教育テレビの愛称として「Eテレ」を導入し番組の宣伝などで活用。1959年の放送開始以来、五〇年以上にわたって親しまれた「教育テレビ」の名称

◆東日本大震災で壊滅的な被害を受けた宮城県南三陸町に、被災者らに生活情報などを伝える臨時災害FM局「南三陸災害エフエム」が開局。町内で最も大きな避難所だった総合体育館2階の廊下に

が、これで消えることになる。(5月27日)

◆BPOの放送倫理検証委員会は、日本テレビが今年1月8日に放送した報道番組『news every. サタデー』内の特集について「事実が正

機材を並べ、簡単なスタジ
オを設置した。開局には
地震災害に遭った神戸市
と新潟県長岡市のラジオ
局が機材などを提供し
た。開局当初は、ラジオ
局のスタッフや神戸の大

確でなく、公平性も損な
っており、放送倫理に準
反する」とする意見書を
公表した。番組は、ベッ
トビジネス特集でベッ
サロンやペット保険を運
営する会社の社員をあた

◆東日本大震災で被災した
岩手、宮城、福島県の地
上デジタル放送完全移行
た職員だけで運営する。
(5月17日)

かも一般客のように放送した。(5月31日)

◆東日本大震災の被災地で放送を始めた臨時災害FM局の多くが、免許の当面の有効期間の二カ月を超えても放送を続ける見

を最長一年延期するとの総務省の決定について、民放連の広瀬道貞会長は記者会見で「二年は長すぎる。できれば年内を目標に折衝していきたい」と述べた。（5月26日）

◆NHKは、「教育テレビ」

通しとなった。岩手、宮城、福島、茨城の四つの県には5月末現在で開局中の災害FM局が一八局ある。被災地では復旧作業が長期化して避難生活を続ける人も多く、生活情報を伝える必要がある

のチャンネル名を6月から「E（イー）テレ」に変更することを明らかにした。「Eテレ」の「E」には教育を意味する「エ

（5月31日）

[illegible]

「心」の分科会では、九州大学心療内科より医学博士・細井昌子さんと、医師・澤本良子さんを招いて、心のかげと女性の心と体の痛みくとうウマ体験との関連」をテーマに話を聞きました。

まず澤本さんが、阪神大震災後の被災者の心理状態をまとめたデータを元に、震災体験の後には、一時的に何にでも前向きに頑張れる時期が訪れ、数か月後から将来の不安や喪失感による「幻滅期」に入る」と説明され、まさに今、被災地では心のかげが求められていると認識させられました。続いて細井さんが、幼い頃からマターだったマイケル・ジャクソンの奇行

うことがトレスの原因となり「うつ病」へと発展しやすいという症例を紹介し、心に余裕を持つことの大切さを再確認しました。

被災地の参加者が「視聴者からの深刻な電話相談にどう対応しているか分からない」と質問する中、「特に助言の必要はなく、自分の枠を決めて、とにかく聞きた影響を及ぼすという話」をされ、参加者の多くが子どもの話をのびのび聞く時間を持つことの大切さを改めて感じていたようでした。

心の安や心理状態を分かちやすさ説明してもらったことで改めて気付くことが多く、収穫の多い内容でした。

体調を崩した当初、長男は生後六ヵ月、妻はたった一人での育児に行き詰まり、中村さん本人も軽度のうつ状態。以前の仕事を辞め、半年の療養期間中に子どもと真剣に



男性の参加が多かったイクメン

男性の参加が多かったイクメン分科会



メディア日誌

2011.5.15

デュケーショナルの他

◆在京民放キー局五社の2011年3月期連結決算が出そろい、放送事業に加え、番組と番組の間に流すスポット広告が好調に推移し、フジ・メデイア・ホールディングスなど三社が増収だった。

(5月12日)

「エニロジー」の意味合いも込めたという。NHKは昨年度から、教育テレビの愛称として「Eテレ」を導入し番組の宣伝などで活用。1959年の放送開始以来、五〇年以上にわたって親しまれた「教育テレビ」の名称

◆東日本大震災で壊滅的な被害を受けた宮城県南三陸町に、被災者らに生活情報などを伝える臨時災害FM局「南三陸災害エフエム」が開局。町内で最も大きな避難所だった総合体育館2階の廊下に

が、これで消えることになる。(5月27日)

◆BPOの放送倫理検証委員会は、日本テレビが今年1月8日に放送した報道番組『news every. サタデー』内の特集について「事実が正

機材を並べ、簡単なスタジ
オを設置した。開局には
地震災害に遭った神戸市
と新潟県長岡市のラジオ
局が機材などを提供し
た。開局当初は、ラジオ
局のスタッフや神戸の大

確でなく、公平性も損な
っており、放送倫理に準
反する」とする意見書を
公表した。番組は、ベッ
トビジネス特集でベッ
サロンやペット保険を運
営する会社の社員をあた

◆東日本大震災で被災した
岩手、宮城、福島県の地
上デジタル放送完全移行
の職員だけで運営する。
(5月17日)

かも一般客のように放送した。(5月31日)

◆東日本大震災の被災地で放送を始めた臨時災害FM局の多くが、免許の当面の有効期間の二カ月を超えても放送を続ける見

を最長一年延期するとの総務省の決定について、民放連の広瀬道貞会長は記者会見で、「二年は長すぎる。できれば年内を目標に折衝していきたい」と述べた。（5月26日）

◆NHKは、「教育テレビ」

通しとなった。岩手、宮城、福島、茨城の四つの県には5月末現在で開局中の災害FM局が一八局ある。被災地では復旧作業が長期化して避難生活を続ける人も多く、生活情報を伝える必要がある

のチャンネル名を6月から「E（イー）テレ」に変更することを明らかにした。「Eテレ」の「E」には教育を意味する「エ

（5月31日）